

平成31(2019)年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立横川西小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、平成31(2019)年度「とちぎっ子学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し、児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに、各学校が組織的に学習指導における検証改善サイクルの構築・運用に取り組むことにより、本県児童生徒の学力向上に資する。

2 調査期日

平成31(2019)年4月18日(木)

3 調査対象

小学校 第4学年、第5学年(国語、算数、理科、質問紙)

中学校 第2学年 (国語、社会、数学、理科、英語、質問紙)

4 本校の実施状況

第4学年	国語	81人	算数	81人	理科	81人
第5学年	国語	85人	算数	85人	理科	85人

5 留意事項

- (1) 本調査は、対象となる学年、実施教科が限られていることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。

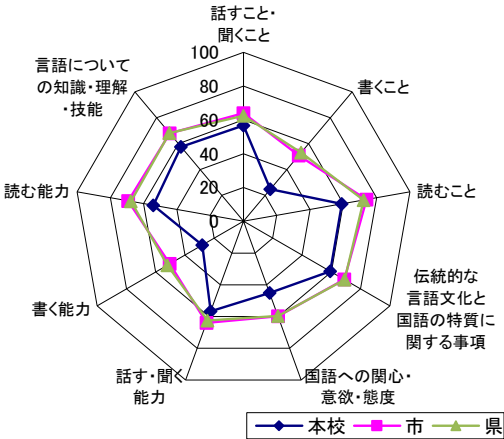
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。

- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立横川西小学校 第4学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	話すこと・聞くこと	56.7	64.0	62.5
	書くこと	24.8	50.9	53.1
	読むこと	59.1	73.9	72.2
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	59.2	68.9	69.1
観点	国語への関心・意欲・態度	45.2	59.9	59.7
	話す・聞く能力	56.7	64.0	62.5
	書く能力	28.2	50.4	52.0
	読む能力	54.2	69.3	67.6
	言語についての知識・理解・技能	57.6	67.9	68.2



★指導の工夫と改善

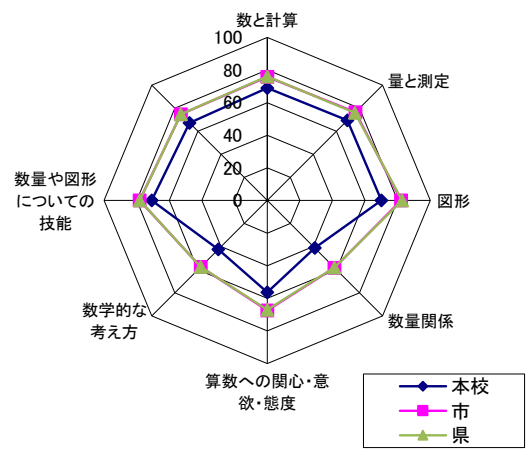
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	平均正答率は、市の平均より低い。 ○大事なことを落とさずに聞くことができていて、市の平均正答率をやや上回った。 ●自分の意見とその理由を書く問題での無回答率が7.4%、メモをもとに文中に合うインタビュー内容を記述する問題での無回答率が38.3%と高かった。	・「話すこと・聞くこと」の単元に限らず、学級活動や1分間スピーチ、他教科においても指導を重ねていく。 ・国語科に限らず、授業の中でペア学習やグループ学習を適切に取り入れることで、自分の意見と理由を述べることに少しずつ慣れていく。
書くこと	平均正答率は、市の平均より低い。 ●無回答率が54.3%、文の途中で終わっているものは25.4%であった。質問紙調査で問題を解く時間が足りなかったと回答した児童は38.2%であったことから、時間があっても書かなかった児童がいることが分かる。 ●指定された文量で書くことや、指定された段落構成で書くことができていない児童が多い。段落の意味を理解できていない児童が多いことが分かる。	・朝の学習で、短い文章を書く練習を積み重ねていくことで、まず書くことへの抵抗を減らしたり、他教科でも自分の意見や感想を書く機会を授業中に確保したりするなどスモールステップで書くことへの抵抗感を減らしていき、児童が少しでも書くことに自信がもてるようにする。 ・「書くこと」の単元において、教科書の例文等で段落構成の仕方をきちんと理解できるような授業を展開する。
読むこと	平均正答率は、市の平均より低い。 ○説明文では、何について書かれた文章であるかは読み取ることができている。 ●説明文においては、段落相互の関係を的確に読み取る問題での正答率が低かった。 ●物語文における場面の様子や登場人物の心情を読み取りが市の平均より低かった。選択問題であるが、文章中の表現を適切に理解していないことが分かる。	・授業で「読むこと」の単元においては、段落相互の関係について児童がじっくり考える時間を確保することで、児童一人一人が段落の意味を理解できるようにしたい。 ・教材文の中の文章を自分の言葉で言い換えることを授業の中で取り入れることで、様々な文章表現を身に付けられるようにしたい。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	平均正答率は、市の平均より低い。 ○漢字を読むことは、できている。 ●漢字を正しく書くことができない。また無回答も多い。 ●文の構成(主語と述語)について理解していない。	・新出漢字の学習の際に、間違えやすい点を抑えたり、様々な熟語を示したりする。また、授業の最初の5分間を漢字定着のためにミニテストの実施や反復練習の時間に当て、定着を図っていく。 ・文の構成を理解するために、教材文の中での主語・述語を児童の問うことを繰り返していく。

宇都宮市立横川西小学校 第4学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	69.0	75.8	76.1
	量と測定	69.5	76.5	76.0
	図形	70.0	82.1	82.7
	数量関係	41.2	58.4	58.2
観点	算数への関心・意欲・態度	56.3	67.4	67.0
	数学的な考え方	42.3	57.5	57.7
	数量や図形についての技能	70.8	78.2	78.1
	数量や図形についての知識・理解	67.3	74.8	74.9



★指導の工夫と改善

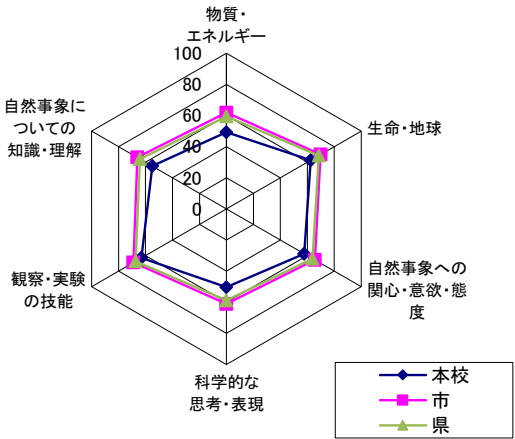
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	平均正答率は、市の平均より低い。 ○基本の計算問題は、正答率が市の平均と同等であった。 ●小数の計算や大きな数の問題になると無回答率が10%以上となり、正答率も市の平均と比べて低い。 ●工夫して計算する方法を説明する問題の正答率が28.4%と低く、無回答も27.2%と高かった。また、わり算でのあまりを切り上げる理由を説明する問題での無回答も29.6%と高かった。	・日々の授業の中で、見やすい板書を心がけるとともに、系統性を踏まえ、振り返る学習を授業で加えながら定着を図れるようにする。 ・朝の学習で、小数の計算や大きな数についての問題を行い、学習内容を定着できるようにする。 ・授業で計算の方法や考え方を自分の言葉で説明する活動を取り入れていくことで、児童の理解を深め、学習の基礎基本の定着を図っていく。
量と測定	平均正答率は、市の平均より低い。 ○時刻と時間の問題では、時間を求める問題での正答率は市の平均と同等であった。 ●今の時刻から何分前の時刻を求めるといった問題での正答率が低い。 ●重さの単位の仕組みは理解しているが、身近にあるものの重さの単位の問題では正答率が低い。	・単位の学習の際には、具体物を用いた授業、実感的に捉えられる授業を展開し、基本的な量の大きさについての感覚を豊かにさせていく。 ・算数科だけではなく、重さ・長さ・時間について日常生活の中で取り上げ、実生活の中で単位を意識できるようにする。
図形	平均正答率は、市の平均より低い。 ○円の直径については市の平均と比べて低いものの、84%の正答率であった。 ●円や球の直径や半径を理解できていても、それらの知識を活用する文章問題の正答率は48.1%と低い。	・図形の性質について学習したあとで、授業の中で日常生活の場面を想定した問題を取り入れ、児童一人一人が課題解決する授業展開をする。そうすることで、授業で得た知識を実生活の中で活用する力を育んでいく。
数量関係	平均正答率は、市の平均より低い。 ○□を使った文章問題(減法の場合)を表した図の構造をとらえる問題での正答率は、74.1%であった。 ●棒グラフが書けない理由を説明する記述式の問題での無回答率が54.3%と高く、正答率は2.5%とかなり低い。	・授業において、自分の考えを説明する活動や、友達の考えを自分の言葉で説明する活動を取り入れることで、考えを書くことの習慣化を図っていく。

宇都宮市立横川西小学校 第4学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	物質・エネルギー	49.3	61.9	59.4
	生命・地球	62.5	69.8	68.5
観点	自然事象への関心・意欲・態度	57.7	65.6	63.9
	科学的な思考・表現	50.3	61.0	58.8
	観察・実験の技能	63.1	69.0	67.4
	自然事象についての知識・理解	55.0	66.1	64.2



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
物質・エネルギー	平均正答率は、市の平均正答率より低い。 ○「遮光版を使って太陽を見ることができる」という問題の正答率は、95.8%で高く、太陽を直接見てはいけないことの重要性について理解している。 ●何を明らかにするための実験かを問われる問題への正答率が、48.1%と低い。 ●「種類の異なる同体積の物体の正体を、情報を読み取って推測することができる」という問題の正答率は、46.9%と低く、無回答も27.2%と高かった。 ●「電気工事をしている人がゴムの手袋や長靴を使用する理由を説明することができる」という記述式の問題では、無回答率が34.6%と高く、課題が見られた。	・実験を行う際に、何を調べるための実験かを理解できていないことが分かる。何のための実験であるのかをきちんと理解し、実験方法を児童が考えるという授業を展開することで、思考力を育んでいきたい。 ・授業の中で学んだことや得た知識を活用する力を付けるために、単元の最後に日常生活を想定した問題を取り上げ、解決する授業を取り入れる。 ・十分な定着が図れていないと思われる言葉があるので、各単元で覚えるキーワードを示す方法を工夫する。また、それらを使って自分の考えを書いたり、発表させたりする活動を意図的に取り入れていく。
生命・地球	平均正答率は、市の平均正答率より低い。 ○「トンボとクモが昆虫かどうか見分けることができる」という問題の正答率は、91.4%で、県の正答率を上回った。 ●「植物の育ち方」では、植物の育つ順序の正答率が49.4%と半分で、課題が見られる。	・観察を行う際には、観察のポイントをきちんと示して行うようにすることで、観察する力を身に付けられるようにする。 ・観察のまとめを行う際には、キーワードを示し、自分の言葉でまとめるようにし、説明する力を付けるとともに理解を深められるようにする。

宇都宮市立横川西小学校 第4学年 児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「家で、学校の宿題をしている」「学校の宿題は、自分のためになっている」と回答した児童の割合は、県の平均を上回っており、家庭での学習習慣が身に付いていることが分かる。

○「勉強していて、おもしろい、楽しいと思うことがある」と回答した児童の割合が87.6%、「学習に対して、自分から進んで取り組んでいる」と回答した児童の割合が76.6%で、県と市の平均より高い。このことから、学習のきっかけとして大切な興味関心が高いことが分かる。今後も、興味関心をもって学習に取り組めるような授業展開に努め、学力向上につなげていきたい。

○「授業では、クラスの友達との間で話し合う活動をよく行っている」「友達と話し合うとき、友達の話や意見を最後まで聞くことができている」と回答した児童の割合が県や市の平均より高くなっており、話し合いの場を効果的に取り入れる授業づくりを工夫している成果が表れている。今後は、自分の考えを説明する指導の充実に努めていきたい。

○「学校のきまりを守っている」「学校での役割や係の仕事にせきにならぬように取り組んでいる」と回答した児童の割合は9割を超えており、一人一人が責任をもって行動している成果が表れている。今後も係の工夫などを多く設定して児童の意識向上に努めたい。

●「家で、自分で計画を立てて勉強している」「家で、学校の授業の復習をしている」「家で、学校やじゅくの決められた宿題のほかに自分で考えた勉強をしている」と回答している児童の割合が、市や県の平均よりも下回っている。家庭学習の習慣はあるので、今後は、自主学習の内容を紹介したり、自主学習の継続を称賛したりすることで、自ら進んで考え学習に取り組めるようにしていきたい。

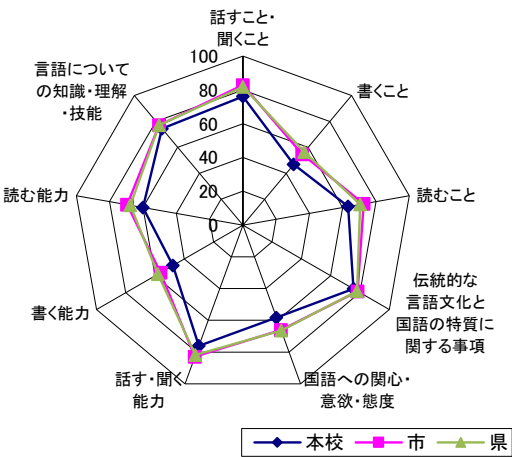
●「授業の最後に振り返る活動をしている」「授業であつかうノートには、学習の目標(めあて・ねらい)とまとめを書いている」と回答した児童の割合は、市や県の平均より低い。今後は、めあてから振り返りまでの流れを意識して授業を行い、児童が授業の1時間の中で学んでいる実感を得られるようにしていきたい。

●「1日当たりのテレビやビデオ・DVD視聴の時間(平日)」「1日当たりのテレビゲームの時間(平日)」で1時間以上と回答した児童の割合は、県や市の平均より高い。その時間を読書や家庭学習に少しでも結び付けられるよう、啓発していきたい。

宇都宮市立横川西小学校 第5学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	話すこと・聞くこと	76.1	82.9	81.8
	書くこと	46.8	54.8	56.5
	読むこと	63.2	72.6	70.5
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	75.6	78.4	78.1
観点	国語への関心・意欲・態度	58.2	66.0	66.4
	話す・聞く能力	76.1	82.9	81.8
	書く能力	47.8	56.3	57.9
	読む能力	60.0	69.5	67.6
	言語についての知識・理解・技能	74.4	77.2	77.1



★指導の工夫と改善

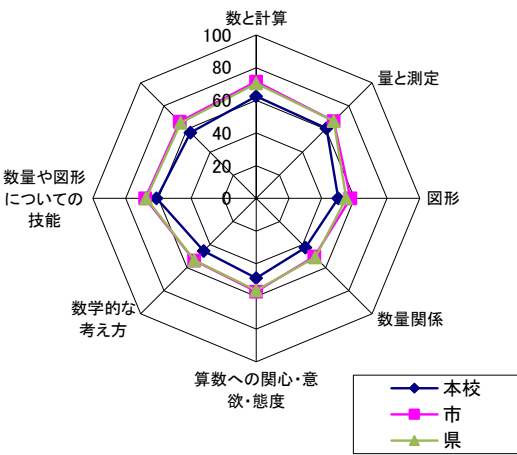
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	平均正答率は、市の平均より低い。 ○話していることの内容のだいたい理解することができている。 ●問題に対して、適切に答えることができていないため、記述問題の正答率が低い。 ●メモの取り方が簡潔ではなく、聞き取りながら重要な言葉をメモできている児童が多くはない。	・国語科の授業において、名詞と動詞で構成された文章を用いた聞き取りゲームを行うなど、児童が楽しみながらキーワードを理解できるような実践を積み重ねていく。 ・国語科の授業だけではなく、朝会や帰りの会などで、話を聞いて、自分の考えをもてるように、感想を書く時間を確保していく。
書くこと	平均正答率は、市の平均より低い。 ○指定された文量で書こうとしている児童が多い。作文指導等で、何行以上で書こうという指示は定着しているからだと考えられる。 ●2段落構成で文章を書くことができていない児童が多い。段落を意識して文章を書くことに不慣れな児童や段落の意味を理解できていない児童が多いことが考えられる。	・国語科の授業で作文指導を行う際には、これまでも構成メモ作りを行い、それに従って段落を意識した作文を書いてきているのだが、今回の結果から、書く機会が少なく、一人で文章を書く際には段落を意識することができていないことが分かる。今後は、国語科以外でも書く場面を多く設定し、各段落に書く内容も示すことで、書くことへの抵抗感を減らしたり、段落構成の意味を理解させたりしていく。
読むこと	平均正答率は、市の平均より低い。 ○説明文についての読み取りは、平均正答率が市の平均正答率と同等であった。内容を理解できている児童が多いことが分かる。 ●物語文における場面の様子、登場人物の心情についての読み取りが市の平均より低かった。選択問題であるにも関わらず、文章中の表現と同様の意味で言い換えた選択問題であることが正答率が低い要因であると考えられる。	・物語文を読み取る際に、登場人物同士の関係を適切に読み取れるように図や表を用いて表したり、会話や様子を表す言葉を取り出し、そこからどんな心情が分かるのか話し合ったりする授業を実践していく。 ・文章から読み取ったことを、自分の言葉で言い換えることを授業中に行っていく。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	平均正答率は、市の平均よりやや低い。 ○文の構成についての問題は、市の平均と同等の結果であり、理解できている。また、指示語についても正答率が高かった。 ●漢字辞典の使い方に関する問題への正答率が低くなっている。	・漢字辞典の使い方は、部首索引、総画索引の方法が理解できていない結果となった。辞典の使い方については、実際に使用する場面では正しく行っていたのだが、使い方を説明するまでに至らなかったと考えられる。今後は、漢字辞典に限らず、使用方法を自分で説明させることを実践することで、理解をさらに深めていきたい。

宇都宮市立横川西小学校 第5学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	62.5	71.5	70.4
	量と測定	60.6	67.0	66.9
	図形	50.1	57.6	55.0
	数量関係	42.5	50.2	51.1
観点	算数への関心・意欲・態度	48.8	57.0	56.3
	数学的な考え方	45.6	53.8	53.6
	数量や図形についての技能	61.0	68.0	67.4
	数量や図形についての知識・理解	57.0	66.3	65.4



★指導の工夫と改善

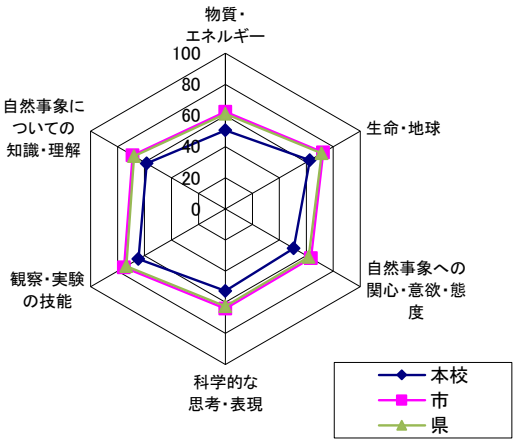
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	平均正答率は市の平均より低い。 ○2位数÷1位数の基本的な計算は県の正答率を上回った。 ●2位数で割るわり算の計算では、割り切れるまで計算することや余りを出すことに課題が見られる。 ●わり算の計算を工夫し、計算の仕方を説明する問題の正答率は45.9%と低く、無回答は21.2%ととても高い。	・基本的な計算力を高めるために、朝の学習等を利用し繰り返し指導していく。また、誤答の直しを確実にし、さらになぜ問題を間違えたかを自分なりの言葉で書き込むことで、間違いを理解し、同じミスを少なくしていくようにする。 ・計算の方法や考え方を文章で表現することで、理解を深め、学習の基礎基本の定着を図るとともに、表現力を高められるよう継続的に指導していく。
量と測定	平均正答率は市の平均より低い。 ○角度を求める問題で、180°より大きい角度を求める計算式はよく理解している。 ●分度器を使った角度を読む問題では、約4割の児童が目盛りを読み間違えている。 ●算数の教科書の面積について答える問題の正答率は24.7%と低い。身近な物の面積を理解している児童が少ないことが分かる。	・学習内容の理解を深めるため、生活と結びつけた問題に積極的に取り組み、繰り返し指導していくことで学習内容の定着を図りたい。 ・分度器読み方について再度確認し、反復練習を行う。また、文章問題など活用問題なども取り入れ、さらなる定着を図っていく。
図形	平均正答率は市の平均より低い。 ○図形の問題は比較的正答率が高く、県の平均と同等か上回って平均正答率は市の平均より低い。いる結果となった。 ○ひし形を作図する問題の正答率は81.2%と高い。 ●地図上の2つの行き方の道のりが等しくなるわけを説明する設問では、正答率が7.6%ととても低く、県の平均の15.4%の半分に満たない。22.4%の児童は無回答である。	・繰り返し問題に組み込み、復習を行うことで学習内容の定着を図る。 ・理由や考えを説明する活動を意図的に取り入れ、自分の考えを書くことの習慣化を図り、表現力の向上を目指す。
数量関係	平均正答率は市の平均より低い。 ○四則の混じった計算順序や、ともなって変わる量の一方の値からもう一方の値を求めるやり方は理解できており、県の平均とほぼ同じ正答率だった。 ●数量関係を式に表す問題では、県の平均を大きく下回り、無回答の児童も21.2%ととても高い。	・文章問題や活用問題を取り入れて繰り返し学習することで、問題を把握して結果を予想し、見通しを立てて自力解決へとつなげていく力を高めていけるように指導していく。 ・見通しを立てて自分の考えを様々な表現方法で表す活動を意図的に取り入れ、筋道を立てて考えたり表現する力を身に付けさせたい。

宇都宮市立横川西小学校 第5学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	物質・エネルギー	50.5	62.4	61.1
	生命・地球	62.6	72.5	71.4
観点	自然事象への関心・意欲・態度	50.7	63.4	61.7
	科学的な思考・表現	52.7	64.1	62.6
	観察・実験の技能	64.5	75.2	73.5
	自然事象についての知識・理解	58.4	68.8	67.8



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
物質・エネルギー	平均正答率は市の平均正答率より低い。 ○水を温めたときの温度変化や、空気のあたため方、水のあたため方についての問題では、市の平均正答率と同等であった。授業で実験した内容についてはしっかりと理解できていることが分かる。 ●授業で実験した条件をわずかに変えた問題での正答率が低いことから、実験結果を一般化して捉えられていないことが分かる。 ●基本的な用語を問われる問題や、記述式の解答を必要とする問題での無回答率が、市と比較して高く、言葉で説明することを苦手としていることが分かる。	・実験を行う際に、児童が何のための実験なのかという意識していないままであることが考えられる。今後は、さらに課題を明確にすることで、一人一人が課題解決のための実験であるという意識をもって実験に臨めるようにしていく。 ・実験結果を一般化して捉えられるようにするために、実生活の場面に置き換えた具体的な説明をしたり、課題を実生活の場面から考えたりするようにしていく。 ・実験結果を自分の言葉でまとめる習慣を付けることで、記述する問題への抵抗感をなくしていきたい。
生命・地球	平均正答率は市の平均正答率より低い。 ○動物の体のつくりや、天候による1日の気温変化のちがいにに関する問題は、市の平均正答率と同等であった。 ●水のすがた、気温の正しい測り方、月や星の観察の仕方に関する問題について、市の平均正答率を低かった。このことから、観察する際の用具の正しい使い方や注意点が身に付いていないことが分かる。	・授業で観察を行っているにも関わらず、正しい用具の使い方や記録用紙のかき方など、観察の基本が理解できていないことから、今後の授業の中で観察を行う際に、ポイントをしっかりと押さえて授業を行っていく。 ・単元ごとの学習のつながりを意識できていないため、定着が図れていないと考えられるので、植物と動物、月と星を比較するなど単元と単元とのつながりを意識した指導を行うことで、理解を深められるようにする。 ・学習した内容の定着を図るためにも、理科の復習を定期的に行うようにする。

宇都宮市立横川西小学校 第5学年 児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「家で、学校の宿題をしている」や「家で勉強するときに、だいたい同じ時こくにとりくむようにしている」では、市や県の平均を上回っている。毎日、宿題に取り組むよい習慣が身につけていることが分かる。

○「勉強していて、おもしろい、楽しいと思うことがある」「ぎ間に思うことは、分かるまで調べたい」「学習に対して、自分から進んで取り組んでいる」「授業を集中して受けている」では、市や県の平均を大きく上回っており、学習に対する意欲的な態度が見られる。今後も、興味関心が高まるような授業の展開を工夫し、学力向上につなげたい。

○「グループの話し合いに自分から進んで参加している」「クラスの友達との間で、話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている」では、友達と話し合うとき、友達の話や意見を最後まで聞くことができている」で、市や県の平均を大きく上回っている。今後も授業の中で話し合いや学び合いの時間を意図的に取り入れ、学習を深めていきたい。

○「学校のきまりを守っている」「学校での役割や係の仕事にせきにんをもって取り組んでいる」の肯定群回答割合が高く、日頃から自分の行動に責任をもって生活している様子が伺える。今後も継続していけるよう、指導していきたい。

○「毎日の生活が充実していると感じている」児童は、約95%と高い数値を示している。どんな活動にも進んで取り組み、達成感や成就感を味わえているようだ。これからも明確な目標をもち、それに向かって努力することでさらに達成感や成就感を味わわせたい。

●「家で、学校や塾の決められた宿題のほかに自分で考えた勉強をしている」の肯定群回答割合は、市や県の平均に比べ10ポイント下回っている。与えられた課題はきちんと取り組むことができ、学習意欲もあるが、何をどのように学習していけばよいか分からない児童がいると思われる。自分で勉強の計画を立てるポイントを示し、決められた宿題のほかに何を勉強すればよいかを助言して高い学習意欲を継続していきたい。

●「漢字の読み方や言葉の意味が分からないときは、辞書を使って調べている」では、市や県の平均より約10ポイント下回っている。辞書の使い方を復習し、意味の分からない言葉を進んで調べていくよう指導するとともに、辞書を使う活動を意図的に取り入れていきたい。

●「算数の学習は好きですか」では、市と県の平均より約10ポイント下回っている。今年度始まった習熟度別学習において児童の学力向上のために分かる授業の展開を心がけ、分かるから楽しい、好きにつなげていけるようにしたい。

●「将来の夢や目標をもっている」では、市や県の平均を5～10ポイント下回っている。今後はキャリア教育の充実を図り、6年生や中学校進学へ向けて目標や夢をもつことができるようにしていきたい。

宇都宮市立横川西小学校（第4・5学年共通）
学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
板書とノート作りの工夫	授業の中で学習のまとめと振り返りを丁寧に行うための整理された板書や分かりやすいノート作りを行っていくことで、授業で学んだことを整理して、確実に身に付けられるようにする。	「振り返る活動をよく行っているか」という質問に対しての肯定的に回答した児童の割合が4年生では市の平均を下回っていた。また、ノートへのめあて・まとめを記入しているかということについては、4・5年生ともに8割程度の児童が肯定的な解答であった。振り返りの時間の確保については、学年差が大きいことから今後も課題であることが分かる。
家庭学習の定着を図る工夫	宿題の内容を工夫したり、3～6年生の自主学習用に「家庭学習のヒント集」を配布したりして、学年に応じた目標時間取り組んで、提出するよう指導している。	学校から出された宿題に関しては、4・5年生ともに家庭でしっかり取り組んでいることが分かる。しかし、自分で計画を立てて学習するということに関しての肯定回答割合は4・5年生ともに市の肯定回答割合を下回っており、自主的な取組に課題があることが分かる。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
どの教科であっても、記述式で解答する問題や短答する穴うめ問題への無回答率が市の平均と比べて高い。	授業中のまとめ、振り返りの方法を改善する。	授業の最後に行うまとめを児童が自分の言葉でまとめるようにする。各学級の実態に応じて、キーワードを示すなどの工夫をして実践していく。また、振り返りについても、具体的な授業の場面を思い起こさせたり、理解できたこと、できなかったことを自分でしっかりと振り返らせたりすることで、自分の言葉で書くという習慣をつけさせていきたい。